横浜市立富士見台小学校 学校だより　第４８０号

令和６年１月３１日発行 「２月号」

# ふじみだい

## 「雪山の寒苦鳥」

副校長 岡田　大作

令和６年１月１３日（土)、横浜でも昨年より６日遅い初雪が見られました。テレビでニュースを見ながら、「昔からセンター試験の頃になると、雪が降るな。」と漠然と考えていました。気になって調べてみると、１月５日～２月３日の頃を「寒」といって、１年で一番寒い時期にあたるそうです。今年の大寒は１月２１日でした。なるほど、センター試験の時期に寒くなり、雪が降るのも、日本の季節の移り変わりの一つなのだと、改めて感じました。

これからは日の出が早くなり、日ごとに春が近づいてきます。とはいえ、まだまだ寒いのも事実です。特に朝は、なかなか布団から出ることができないことがあります。そんなとき、ふと、子どもの頃に聞いたたとえ話を思い出しました。それはこんなお話です。

昔々、インドの雪深い山に鳥の夫婦が住んでいました。昼は太陽の光が当たるので雪山でも暖かくなり、鳥たちは陽気に浮かれて、のんきに歌を歌って遊んでいます。でも夜になると急に厳しい寒さになり、遊んでばかりいたことをとても後悔します。雌は「寒くて死んでしまう。」と泣き続けます。雄は「夜が明けたら、巣を作ろう。」と固く決心し、雌をなだめます。でも夜が明けて暖かくなると、その苦しさをすっかり忘れて、昼の間中、いつもと同じように浮かれて遊びまわり、また夜になると、「明日こそは巣を作ろう。」と決心します。この鳥たちは、夜は寒さに苦しみ、昼は遊び続けることを繰り返して、「明日は巣を作ろう。」と鳴きながら、最後まで巣を作ることなく一生を終えるそうです。この鳥たちのことを、雪の山に住み、寒さに苦しむということで「雪山の寒苦鳥」と呼ぶそうです。

子どもの頃に初めてこの話を聞いた時は、「ふーん、そんな鳥がいるんだ。」と普通に信じていました。でも、少しずつ大人になるにつれて、この物語の鳥たちのように、楽な道を選んでしまう自分の姿が見えてきます。

人の心は弱いもので、苦しいときは、「あの時、もっとやっておけばよかった。」「次は、もっと前から準備しておこう。」と思うものの、なんとかその苦しみから抜け出せると、「頑張るのは明日からにしよう。」「今日は疲れているから。」と、何かと理由をつけて先延ばしにしてしまいがちです。「決意」、「決心」することはとても大切ですが、それを具体的な行動に変えないで、この言葉にだけ満足していても、現実は何も変わりません。きっと、本当に決意することは即行動に移せるということなのかもしれません。寒い朝に、布団から出られずいる自分は、そんなことを考えてしまいます。

このお話を大人になった今でも、こんな風に時々思い出し、「やらなければならないこと」を後回しにしようとする心と戦っています。面倒でも、やりたくなくても、「今やらなければいけないこと」や、「やっておくべきこと」が必ずあります。それは、子どもだろうと大人だろうと関係ありません。今できないことが、時間がたてば（大人になれば）急にできるようになるわけでもありません。今できることは、きっと昔の自分が、その時にはできなくても、できるようにと頑張り続けてきた結果だと思います。だからこれからも、心の弱さに時々負けながらも、また決意して挑戦していきたいと思います。

保護者、地域の皆様、今年もよろしくお願いいたします。